

# 令和元年度 在宅療養児支援連携研修 報告

## ▶日時

令和元年 11月30日 (土)  
13時20分～16時30分



## ▶場所

佛教大学二条キャンパス  
209号室

▶参加者 20名

今年度は、在宅で療養している医療依存度の高い小児を地域で支えるために必要な知識や技術を習得する事で実践に生かし、小児看護を提供する訪問看護ステーションが増え充実していく事を目指す事を目的に佛教大学二条キャンパスにて行われました。



まず、京都府丹後保健所の中澤美穂子氏により在宅療養児支援連携の取り組みについてという事で、

全国の医療的ケア児の状況、それに対し京都府における現状と取り組み、丹後保健所における在宅療養児支援・管内の子どもたちについて図やグラフを見ながら分かりやすく説明されました。

## ▶プログラム

13:20～13:50

行政の立場から

地域の現状、取り組みについて

京都府丹後保健所保健室

専門幹 中澤 美穂子氏

13:50～15:00

在宅療養児の訪問診療の現状報告及び

訪問看護師に希望することや

必要な連携について

小山医院 小山 栄子氏

15:00～15:10

休憩

15:10～15:30

在宅療養児の訪問を実施している

訪問看護ステーションの看護師による動画や

写真を用いたケアの実際

訪問看護ステーションとくら

馬場 いく子氏

15:30～16:30

・小児医療モデルを使用した演習

(胃ろうやカニューレ等)

・人工呼吸器の取り扱い方

株式会社K i s t

林 知宏氏 他1名



全国的にも京都府においても医療的ケアを必要とする在宅療養児数は増加傾向にあり改めて小児訪問看護の必要性と重要性を感じました。



次に在宅療養児の訪問診療の現状と訪問看護師に希望すること・必要な連携について小山医院の小山栄子先生にお話をいただきました。

数少ない小児在宅医療の現場から貴重なケースの紹介や実際の診療の場面を動画で見せていただきました。

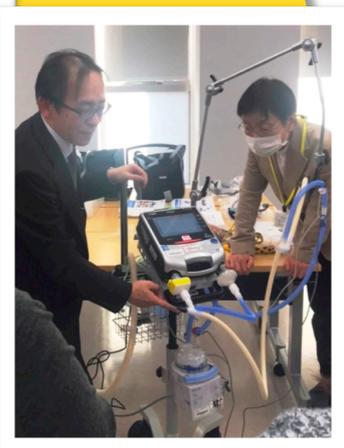
また、小児在宅医療の特徴・京都市の現状として問題点や今後の課題も多く、ここでも訪問看護師が重要な役割を担う存在である事が再認識できる場となりました。



後半では、小児の訪問をされている訪問看護ステーションとくらの馬場看護師よりケアの実際を動画や写真を用いて紹介されました。

実際の馬場看護師と患児のやりとりが、とてもほほえましく、また、楽しそうな雰囲気会場からも笑い声があがっていました。

そして小児医療モデルを使用したPEG や気管カニューレ・NGチューブ挿入の演習があり、馬場看護師の説明のもと実際に近い感じで演習できました。



同時に、株式会社 kist の林氏より小児で使用されている人工呼吸器・カフアシストの取り扱いについて実際の機器を用いての説明がありました。実際の物に見て触れての体験ができ、積極的な質問や意見も多くありました。



研修後のアンケートより、“今はやってないが、今後小児を受け入れようと思った”、“積極的に小児に関わっていけたらと思う”“ハードルが高かったが少しか低くなったように感じた”とのうれしいご意見があり、苦手意識が多い分野でもありますが、この研修を通して、より身近に感じる事ができ、そして小児訪問看護の扉を開けるきっかけにつながればと思います。